

平成 30 年 6 月 21 日

平成 30 年度病害虫発生予察注意報（第 4 号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名 カンキツかいよう病
2. 対象作物 カンキツ（甘夏、ネーブル、伊予柑等の罹病性品種）
3. 対象地域 県内全域
4. 発生量 多
5. 発生時期 葉：発芽直後～10 月、果実：幼果期～9 月末
6. 注意報発表の根拠
 - 1) 本年 6 月中旬の春葉における病斑の発生園率は 34%（平年 18%）、発病葉率は 2.4%（平年 0.7%）と平年に比べ高かった（表 1）。
 - 2) 本年 6 月中旬の果実における病斑の発生園率は 5%（平年 4%）、発病果率は 0.4%（平年 0.2%）と平年に比べやや高かった（表 2）。伝染源となる春葉での発病が多いため、今後の気象条件によっては果実での被害が増加すると予想される。

表 1. カンキツかいよう病の春葉における発生園率と発病葉率

| | 調査年度 | | | | | | | | | | | 平年 |
|---------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | |
| 発生園率(%) | 15 | 10 | 14 | 23 | 25 | 20 | 17 | 22 | 25 | 11 | 34 | 18 |
| 発病葉率(%) | 0.5 | 0.2 | 0.4 | 1.0 | 0.8 | 0.9 | 0.2 | 0.6 | 1.8 | 0.2 | 2.4 | 0.7 |

注)調査園数:64園、調査時期:6月中旬

表 2. カンキツかいよう病の果実における発生園率と発病果率

| | 調査年度 | | | | | | | | | | | 平年 |
|---------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | |
| 発生園率(%) | 0 | 3 | 3 | 6 | 3 | 3 | 3 | 9 | 8 | 5 | 5 | 4 |
| 発病果率(%) | 0 | 0.5 | 0.1 | 0.2 | 0.1 | 0.1 | 0.1 | 0.4 | 0.6 | 0.2 | 0.4 | 0.2 |

注)調査園数:64園、調査時期:6月中旬

7. 防除上の注意事項
 - 1) 伝染源となる春葉及び夏秋梢の病斑の剪除に努める。樹冠拡大を図っている幼木、高接樹等では特に徹底する。
 - 2) 防風ネットや防風樹の設置や整備等を行い、防風対策に努める。
 - 3) ミカンハモグリガの食害痕は病原細菌侵入の原因となるため、本虫の防除を徹底する。
 - 4) 果実への感染を防ぐため、気象情報に留意し、9 月上旬まで銅水和剤の予防散布を継続する。その際、炭酸カルシウム水和剤を混用するなど薬害軽減のための措置を講じる。特に、6 月以降は高温時の散布による薬害に注意する。
 - 5) 農薬については、（独）農林水産消費安全技術センター（FAMIC）の農薬登録情報提供システム（https://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm）を参照し、適正に使用する。

担当：農作物病害虫防除所
有田川駐在 武田
TEL:0737(52)4320